

## サーカー 苦悩からの解放

人間の苦悩は、心が体験しています。しかし、その原因を一つに絞ることばできませんが苦悩は三つの領域からやってきます。一つは、経済的社会的領域からやってくる苦悩です。職場を解雇されたり、不正規の不安定雇用であったり、職場の人間関係に悩んだり、人間として正当な扱いを受けなかったりです。汚染米など病を引き起こすものを食べさせられて身体の病になったり、過重な労働で過労死してしまうのも経済的領域からやってきています。二つ目は心理的領域からやってきます。今、何も苦しむ必要がない場合でも、過去の記憶に苦しむ時、その苦悩の原因は、心理的領域に起因しています。三つ目は、スピリットの領域、すなわち心の深い層（一般の言葉で無意識の層）からやってくる苦しみです。

ブッダなどが説いた宗教は、2と3からの解放を論じます。マルクスが説いた社会主義理論は、1の苦悩の解放を論じます。P. R. サーカーは、三つの領域での人間の解放を論じました。

## サーカー 苦悩からの解放 (文責：吉見)

サーカーが物的領域における解放の必要を述べた箇所です。

「誰も束縛 **bondage** のもとで生きたくありません。誰もがあらゆる種類の束縛から解放されたいと思っています。一時的な解放をサンスクリット語でアルタと言います。飢えた人は空腹から食べ物を求めます。何か食べた時、彼らは飢えから一時的に解放されます。しかし、また飢えの束縛下に置かれます。食べ物を得るにはお金が必要です。アルタの二つ目の意味は、お金です。お金は飢えからの一時的な救いをもたらします。今日は、飢えた人は、お金によって一時的に救われますが明日はまた飢え、より多くお金を必要とします。お金による解放は、決して永久的ではありません。・・・私たちはこの外的世界を無視できません。私たちはアルタ、すなわちお金なしには生きてゆけません。惨めさから解放されるためには、アルタすなわちお金が必要です。しかし、永久的な解放のためにはパラマルタが必要です。」

そこでサーカーはプラウト（進歩的活用理論）を考案したと次のように述べています

「お金は苦悩からの一時的解放を得るのに役立ちます。しかし、お金は限界があります。もし、ある人がお金を貯えると他の人がおかねを奪われます。だから誰も限りなく蓄財すべきではありません。人間の苦悩を取り除くためにいくつかの方法が発見されなくてはなりません。こう考えて、私はこれらの苦悩を取り除くための新しい社会経済論を定式化しました。それはプラウトとよばれます。プラウトだけが、人類の苦悩を救うことができます。食べ物が無い人々にパラマルタの福音を説くことは無益です。」

様々の搾取や不正義、反社会的要素に対しては、市民社会で反搾取の意識を高めて、永続的に集合的な圧力をかけつづけなさいと次のように述べています。

「状況的圧力によって搾取者や不正なもの、反社会的要素に規制をかけることができます。この点での集合的努力は継続的に常になされてゆくべきです。しかし、これは一時的解決をもたらしても、恒久的解決をもたらしません。同時に私たちは、人々が正しい道にそって進むように、慈悲のスピリットと知性を結びつけることによって人間の心にやさしい思考をひきだす努力をしなくてはなりません。一つのアプローチだけではだめです。この両方のアプローチが必要です。前者は一時的であり、後者は恒久的です。」

サーカー以外の聖者は闘争を避けよと言いますが、サーカーは、三層の束縛からの解放のためにあらゆる束縛と闘ってゆきなさい。社会的束縛や経済的束縛、不正義に対しては人々が連帯して集合的に闘ってゆくことを求めます。

「五要素の世界では、様々なタイプの束縛に苦しみます。社会的束縛、経済的束縛、不正による束縛です。最悪の束縛はスピリチュアルな束縛です。人々が liberation を求めて、闘うこと、あらゆる種類の束縛に対して闘わなくてはなりません。」

食べ物がない人々、衣服がなくて寒さに震えている人々住居がなくて寒さに震えている人がスピリチュアル・プラクティスに向かうことが可能でしょうか。どうしてそのような人がスピリチュアル・プラクティスができるでしょうか。社会的束縛からの解放の問題があるところでは、あなたがたは集合的闘争をしなくてはなりません。

しかし、心理的（サイキック）には、あなた方は個人的に闘うべきです。そのとき、解放のための最後の段階は、スピリチュアルな領域では闘争は生じないでしょう。」

#### Subhsita Samgraha Part21

サーカーの考えでは、全人類、生命、宇宙が一つの至高なる存在が生成、変化して出現してきたために、すべての人類が一つの親から分かれた子孫ということになります。だから、すべての人類の安定した暮らしを実現する経済体制のために努力することは、至高なる存在を喜ばせ、至高なる存在に無私の奉仕していることになります。

「私たちは、すべてパラマ・プルシャ（至高の意識）の子孫です。彼はあらゆるものを創造しつつあります。高い、低い、黒い、白い、男、女（male female なのでジェンダー的意味です）の人間の作った区別を気にかけるべきではありません。あなたの心をコスミック・マインドと同一化しなさい。そしてパラマ・プルシャを喜ばせるのかそうでないのかを見

なさい。彼 Him を喜ばせることをしなさい。自分の子どもたちが、一方で飢えて死に、他方で必要以上を蓄えているを見たい父親はいません。あなたがたは、こうしたことが決しておきないように経済的領域を発展させなくてはなりません。」

次にサーカーが知的心理領域とスピリットの領域での解放について述べた箇所です。

「食べ物や衣服が豊富な国の人々は幸せでしょうか。彼らは心の痛み、惨めさに苦しんでいます。これらはサイキックな苦悩です。彼らは、最愛の人を失う苦しみがあります。次はスピリチュアルな苦悩です。人間の心の半径は小さいです。この小さい心が、限界ある対象に専念せざるをえません。心はこれらの有限の対象、有限の幸福を超えて、無限のスピリチュアルな世界へゆかなくなくてはなりません。有限のサイキックな財産はスピリチュアルな苦悩の根本原因です。この有限の束縛を打ち破った状態が、「スピリチュアルな解放 spiritual liberation ムクタ」です。その解放が恒久的な場合は salvation (モクシャ) です。」

この二領域における人間解放の道について、サーカーは「ネオ・ヒューマニズム」と「知性の解放」という一連のスピーチで述べています。

サーカーの議論の特徴は、この世のすべてが始源の一なる至高の意識に形質が賦与されて展開している。心は見ている対象の性質を身につけてゆく。したがって、日々の生活での意識するすべての対象に神性を賦与せよ。すなわちすべてを至高の存在として絶えずみなさいということにつきます。何を見ても一なる至高存在に見える時、心は断片化に苦しみません。それは、すべての人類や生命や存在を尊重する「ネオ・ヒューマニズム」の精神です。

毎日朝晩、短時間瞑想レッスンせよと言いますが、その目標は、自分の心の中の「私」意識の奥に無限の至高の一なる存在が潜んでいるので、「私」意識から、属性を取り除いてゆくことです。それによって小宇宙の私は、実は大宇宙の「私」だったことに気づきます。この気づきに立脚して生きる時、あなたは本当にこの世界に貢献してこの世を去ることができると思います。それは、知性を狭いドグマの枠から解放し、心と知性が自由に無限に羽ばたくことでもあります。